

令和6年度 事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

武蔵丘短期大学

(1) 学校目標

①学校スローガン

人格を育てる教育、専門知識・技術の習得、社会への貢献の具現化を可能とするよう、将来に続く基礎を確固たるものとする。

個人及び社会の多様化に対応する能力開発を目指す教育内容、教育環境の充実・整備を継続し進めてゆく。

学生による情報収集力、正しい結論に至る直観力、洞察力、論理的思考力を育成する学習環境を創造する。

学校スローガンは年度当初の臨時教授会で発表し、各専攻・委員会・PJチームを中心に個々が目標達成を意識して、運営にあたることを共有できた。

通信制・定時制出身者を意識した長期履修制度の案内を高等学校に説明した際は好感触であったため、次年度以降に希望者が集まる事に期待したい。

また、特別強化部は関東学生連盟を中心に活動・活躍し、全国でも数少ない短期大学として名声を高めている。特別強化部への入学希望者が入学者の35%を占め、本学の大きな強みとなっている。

D X化の推進に向けたFD・SD研修を実施し、今後は教学面での実施を検討したい。

②目標達成のための優先課題と活動概要

a. 短大運営

NEXTEPの目標達成に向け、自ら率先して業務運営にあたる事を実行した。

b. 教学改革計画

カリキュラムマップの完成には至らなかった。学習成果については、これまで実施してきた健康栄養専攻での栄養士実力テスト及びプレテストによる客観的評価に加え、健康スポーツ専攻及び健康マネジメント専攻では、新たに各授業での到達目標に対する達成度を自身で評価するアンケートを実施した。また、シラバスをwebシラバスに移行した。

c. 学生募集対策

企業と連携した経済サポートは、件数を増やす事はできなかった。また、社会人の受入れ体制や通信制・定時制等に対する整備として、『長期履修制度』を広く広報する事を実施したが、該当する入学者はいなかった。

d. 外部資金獲得

新たな外部資金獲得としては、女子プロサッカートレーニング補償金2名分を獲得できた。

寄付金に対する返礼品リスト等を整備して、寄付募集案内を進級時(3月)に学費振込用紙に同封した。

e. アーセナルウィメンFC 来日指導

令和6年9月6日(金)～8日(日)の3日間、アーセナルウィメンFCのArsenal Women's Academy ManagerであるHannah Paterson氏とPlayer Care Lead(ピッチ外での教育、メンタルサポートのリーダー)であるCarly Williams氏による来日指導を開催した。本学女子サッカー部のみならず、地域の小・中・高校生や佐久長聖高校女子サッカー部を招き、グラウンドでのサッカートレーニングや選手のピッチ内外でのホリスティック(調和やバランス)等、また教室では「AWFC Individual Player Development On & Off the Pitch」と題して、アーセナルのフィロソフィー(哲学)や栄養について、メンタル・モチベーション維持の仕方等、個人の発展と選手のウェルビーイングに重きを置いた成長についてパワーポイントを使用した講義等、様々な体験をする事ができた。

なお、これまでのアーセナルウィメンFCとの関係や今回の来日指導の内容がアーセナルの機関誌に掲載され、本文及び和訳文を本学ホームページに掲載した。

(2) 教学改革

①中期計画に基づく実施計画

リモート授業の実施を検討するにあたり、まずは教務に関するシステムの見直しを行い、学習管理システムを検討することを計画していたが、大幅な変更となるため、令和6年度はシラバスをwebシラバスに移行することに止めることとなった。

a. 教務システムの見直し

教務システム全体の見直しはできていないが、シラバスについては令和7年度からweb入力ができる形に移行した。今後は、教務システムの見直しについて検討を進める。

b. リモート授業スキルアップ研修会

FD・SD研修として、動画配信による授業動画作成に関する講座を全教職員が受講した。また授業見学の一つとして、各授業のクラスルームに参加し、担当教員と意見交換を行うことも実施した。引き続き研修会の実施を検討する。

②カリキュラム改革等

専攻ごとにカリキュラムマップを完成させること、学生自身が学習成果を確認できる「学習成果の可視化」の検討に取り組むことを計画していたが、どちらも完成には至らなかった。

a. カリキュラムマップの作成、学習成果の可視化

健康栄養専攻は、カリキュラムマップ（案）が作成され、今後検討を進めることとなったが、健康スポーツ専攻はまだ案を作成中で、どちらの専攻も完成には至らなかった。

学習成果については、これまで同様に健康栄養専攻は栄養士実力テスト及びプレテストによる客観的評価を実施した。健康スポーツ専攻は新たに各授業での到達目標に対する達成度を自身で評価するアンケートを実施した。今後はそれらの結果をどのように学生に示し、確認できるようにするかを検討する。

b. 取得資格の精査

各専攻のコースごとに取得できる資格を明確する計画だったが、学生の資格取得状況なども踏まえ、両専攻とも令和7年度にコース及び科目の見直し・検討を行う予定となっており、それに合わせて取得できる資格についても検討を行うこととなった。

資格説明の資料は専攻ごとに作成しており、冊子等にまとめるかは今後も検討する。

c. 地域貢献活動の強化

令和6年度も高大連携協定を締結した高校のみならず依頼のあった学校へも教員による特別講座を実施した。また、今年度は吉見中学校の生徒に対し体験授業を実施した。地域貢献の活動もボランティアだけでなく、ゼミや授業などで実施を継続した。

③キャリア支援・就職支援

キャリア関係の授業において、埼玉仕事センターや企業、ハローワークなどと連携をし、様々な視点からキャリア支援を行うことができた。学生の進路希望や就職活動状況を全教員で共有できる仕組みを活かし、個々の状況に合った活動支援ができた。しかしながら、内定が決まった学生のフォローや内定後の課題など対応があまりできていなかったことと卒業生アンケートの回収率が低いことが課題としてあげられる。

④学生支援・中途退学対策

a. 中途退学対策

サポートを必要としている学生に寄り添えるよう、令和6年度は医務室の看護師、カウンセラーによる相談に加え、特任講師による「何でも相談室」の時間を設け、学生に対応できるようにした。今後は、学生だけでなく教職員も含めたサポート体制についても検討を進めていく必要がある。

b. 学生生活の充実

校友会最大のイベントである武蔵丘祭は、コロナ収束後の外部公開2年目となった。イベント内容を更に充実させて、過去最多来場者数を記録した。また、スポーツフェスティバルを新年度早々の日程で開催し、級友や先輩・後輩・教職員と親睦を深めた。

大学スポーツ協会(UNIVAS)のUNIVAS SSC 認証(安全安心認証)を再取得し、安全安心な環境を整え、特別強化部(女子サッカー部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、陸上競技部、ゴルフ部)や他の部・サークル活動を支援した。

c. メンター制度の充実と促進

メンター制度をより充実させるため、今年度はこれまでの取り組みに加え、新たに授業の中で2年生が1年生に自身の経験などを報告・アドバイスをする場を設け、意見交換をする機会を提供した。それによって1年生がこれから先の実習や進路への不安を解消できるよう努めた。また、入学前教育において、在学生在が新入生に対して学生生活や資格取得などについてアドバイスを実施し、新入生の不安解消に努めた。

(3) 学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

a. 企業による学費サポート

令和5年度までに築いた企業との連携を維持するに留まり、発展・実例づくりには至らなかった。

b. 社会人入学者の増加

・『長期履修制度』を中心とした『学びプラン』を作成し、社会人入学者増へ向けた募集準備を整えた。また通信制高校への訪問を実施できた。今後はさらにホームページ、リーフレットなどの広報物へ積極的に掲載する。

・広報リーフレットを作成してのハローワーク、スポーツチーム、自衛隊、食品・調理系企業のパートタイム勤務者等の調理師などを中心とした広報を継続したが入学者増には繋がらなかった

・Instagramを中心としたSNSを活用した情報発信については計画的に継続実施をしたが、担当者変更により情報発信頻度や内容数は減少した。本学オープンキャンパス出席者へのアンケートによると、最も活用されているSNSはInstagramなので引き続き重点ポイントとして計画的に情報発信を継続しつつ、ホームページの改善も必要と考えている。(社会人在学生ページも含める)

c. 広報対象の拡大

留学生の受け入れについては学費がネックになっていることがあり、オープンキャンパスを含め数件の問い合わせがあったが、現状では難しい状況である。諸々を含めた対応検討は次年度への持越課題である。

②体験入学・学校説明会等

a. オープンキャンパス体験授業に関する試み

Z世代の特性に応じた実現可能性を感じられる体験型実習中心に実施し、参加者の充実度を高め、将来への可能性の実感や本学への興味や親近感がわく内容を検討・実施した。

b. 学校説明会、模擬授業参加校の見直し

・仲介業者の斡旋によるガイダンスとは別に本学で実施可能な体験型模擬授業内容を高大連携校、埼玉県、群馬県などの在学生・卒業生が多い高校を中心に広報(売り込み)した結果、聖望学園高校などの複数高校より模擬授業や講師派遣の依頼をいただき、生徒との接触機会を増やすことができた。

- ・入試委員のみならず、全学的な教員担当配置をして本学の魅力を引き続き伝えた。
- ・学校説明、系統別職業説明については、学びや将来へのイメージがより明確になるよ

うに動画資料（５分程度）を作成する計画だったが実行できていない。しかし八板准教授協力のもと、特別強化部の活動紹介（公式戦等）や学園祭等の学内行事についての動画を作成したことで広報媒体を増やした。

c. 体験型イベント開催の検討

本学の魅力を伝えられる内容のイベントにおいては、クリスマスフェスタに吉見町の小学生イベントを重ねて開催することにより、参加した高校生にとって地域貢献活動をとおした実践的な学びのPRに繋がった。

③その他の取り組み

高校訪問は埼玉県・群馬県を中心に、進路検討時期（４月～６月）、進路決定時期（９月）、４年制大学の総合型選抜・学校推薦型選抜結果発表時期（１１月）の年３回実施した。高校訪問に対する様々な意見も出ているため、入学者数増員への広報に近道はないが、受験対象者別ニーズを把握し、可能な限り効率よく学生募集活動を実施し入学者数を増員することは次年度への継続的課題である。

（４）外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

本学独自の教室は開催できていないが、中学校部活動の地域移行などの連携を通じて開催計画の足掛かり資料を整えることができた。

a. トレーニングジム等の貸出し

学内施設については教室を中心に外部貸出しを継続実施中。

②その他の取り組み

本学卒業生をターゲットとした寄付募集について、ホームカミングデーにてサイト登録を働きかけるなどの活動を同窓会中心となって実施。今後はより発展するにあたり、まずは武蔵丘短期大学の現状（後輩たちの活躍、大学ニュースなど）の関する情報を配信し、母校への想いが募るような取り組みを実施したうえで、寄付募集に至るプロセスを構築したいと考えている。

(5) 人事政策

①中期計画に基づく実施計画

- ・希望退職を募り、実行した
- ・退職に伴う新規採用の見送り（特任講師の採用）
- ・栄養専攻については、食品学担当の教員を採用

②組織編制・要員計画

令和7年度は完全に2専攻となり、マネジメント専攻所属の教員がスポーツ専攻所属となることから、設置基準を遵守した上での組織運営を行った。

③教職員研修・能力開発

DX化を進めるためのFD・SD研修を実施した。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

a. 予算申請方法の改善

次年度の予算申請のタイミングで当該年度の予算余剰額の申請があるため、各予算項目についての余剰額が明確になり、予算申請では切り詰めた予算申請ができています。

b. 健康マネジメント専攻の廃止の検討

健康マネジメント専攻廃止に伴う適正な人事配置について検討した。今後も、長期的な視野に立って教員人事を検討しながら、ベテラン（定年退職）と若手の入れ替えを進める。

c. 女子サッカー部のロンドン遠征の在り方について

渡英の可能性について検討したが、物価高及び円安の影響でツアー費用が高騰しており、学生及び本学にとっても金銭的負担が大きすぎるため、国際情勢が落ち着き現実的な費用になるまでは渡英は見送ることとした。それまではアーセナルからコーチを招いて指導していただくことにする。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

②で計画していなかった機器（冷蔵庫など）の故障があり、入れ替えを行った。開学近くからの機器もあるため、計画的に入れ替えていく必要がある。

②その他の取り組み

サンヨー製のエアコンの入れ替え（3階実習室および学生食堂など）、券売機の入替えを行った。エアコンの入れ替えについては、製造後20年前後経過しているものが多数あるため、計画を立てながら進めていく必要がある。

(8) その他

①社会貢献・地域貢献活動

(1) 産官学連携

吉見町、B&G財団との連携で、本学学生がB&G財団のリーダー研修を受講した後に、吉見町の小学生に水泳指導を実施してリーダー資格を取得した。

(2) 官学連携

(i) 吉見町 (34件)

- ・令和4年7月より後藤学園と吉見町が協定書を締結した「地域活性化起業人制度」により、本学では学生や教職員を派遣し様々なイベント等に取り組んだ。その中でも今年度は吉見町学校給食センターと三ツ目講師の連携によるサツマイモを使用した給食メニューの開発に取り組んだ。
- ・武蔵丘スポーツクラブと共同で吉見町立吉見中学校の部活動地域移行の実証実験に参加し、本学女子サッカー部、女子バスケットボール部、陸上競技部が活動した。
- ・吉見中学校3年生全員が本学の授業を体験する取組みを教育委員会と連携して実施した。

(ii) 東松山市 (31件)

- ・きらめき市民大学で本学教員が合計11回の講義を実施した。
- ・東松山文化まちづくり公社の実施する講座に本学教員が4回実施した。

(iii) 滑川町 (1件)

毎日1万歩運動の栄養教室を長島准教授が担当した。

(iv) 川島町 (5件)

- ・文化財保護事業で川島町に関連する動画作成を八板准教授が担当した。
- ・コミュニティーセンターの事業を木元准教授が2回実施した。
- ・健康講座（食事編、運動編）を実施した。

(v) 鳩山町 (2件)

- ・スポーツフェスティバルでのストレッチ・ウォーキング指導や健康マイレージ事業における身体・体力測定を福島教授、辻准教授が担当した。

(vi) 北本市 (4 件)

- ・埼玉県・北本市総合防災訓練の炊き出し訓練を木元講師が担当した。
- ・子ども大学きたもとを福島教授が担当した。

(3) TJUP (埼玉東上地域大学 (教育プラットフォーム))

TJUP において本学が講師を担当した事業は下記のとおりである。また、この他にも他大学が主催する事業へ積極的に参加して他大学や他自治体との連携を深めた。

公開講座：八坂准教授「住み続けられるまちづくりのために」

三ツ目講師「埼玉東上地域の魅力的な食材たち」

山本助手、金子助手「2025 わくわく教室」

FD・SD 研修：玉木教授「授業の記録について」

太田特任講師「大学生における「ストレス」への理解と対応」

地域の教育活動：吉見町かけっこ教室 (辻准教授)

共同研究：「学生による子どもの水上安全指導に関する課題の研究 (山村学園短大)」

②その他の取り組み

a. 図書館

埼玉県内公立図書館等横断検索システムへ参加し、横断検索が可能となることで利用者の蔵書検索の効率化が図られた。